

➤ 老眼を発症する年齢は低くなっている

私の病院に、「近くのものが見づらくなった」と三十代の女性が来たことがあります。明らかにそれは老眼の初期症状でした。しかし診断結果を説明しても、本人は腑に落ちないようでした。その若さでは当たり前かもしれませんが、それほどまでに「老眼はお年寄りになるもの」というイメージが定着しているのです。

しかし近年、老眼にかかる年齢が低くなっています。「早い人では35歳くらいから、老眼の兆候が現れます。自分では老眼と気づいていなくても、「近くが見づらい」という症状を抱える人は少なくありません。

通常、老眼は眼の老化が原因で起るのですが、このような若い世代の患者に発症する老眼は、それが原因ではありません。現代の「近方視環境」によって、眼は過度な負担を強いられるようになりました。眼を酷使しつづけた結果、「近くを見る」という眼の機能が衰え、近くのものが見づらくなってしまうのです。

かつては「老眼は50歳から」という考えが一般的でしたが、もはや「お年寄りだけが老眼にかかる」という時代ではなくなりました。

私が患者に「あなたは老眼になりはじめています」と告げると、たいいていの患者は嫌な顔をします。「老眼」という言葉にマイナスのイメージを抱いているのでしょう。おそらく、「あなたはもう老いているのですよ」と宣告されたような気になるのかもしれない。

しかし、人間の老化は避けられない運命です。老眼の対処法は、老眼鏡が一番です。老眼鏡は、その原因が老化にせよ眼の酷使にせよ、低下した眼の機能を補い、近くのものにピントを合わせerお手伝いをしてくれます。老眼鏡をかければ不自由なく生活を送ることができるのですが、老眼を認めずに老眼鏡を使いたがらない患者は多いのです。